

ガラテヤ人への手紙

これはパウロが宣教旅行で訪れたガラテヤ地方にある複数の教会に宛てた手紙です
その宣教旅行については使徒の働きに記されています
パウロはこの重要な手紙を居ても立っても居られない思いで書いています
それにはわけがありました
キリスト教はエルサレムでユダヤ人のメシア信仰から始まったものですが
そのメッセージは全人類に対するもので
またたく間にユダヤの外にも広がっていきました
パウロが宣教活動を開始する頃にはユダヤ人と同じくらい
非ユダヤ人の信徒がいて両者の間で大論争が起こっていたことについては
使徒の働き 15 章に記されています
それまで神の契約の民はイスラエルという一つの民族に限られ
彼らはトーラーにある割礼や食事規定安息日の順守など
律法を守ることによって他の民族と区別されていました
そのため非ユダヤ人が神の家族に加えられるためには
彼らもトーラーに従わなければならないと
考えるユダヤ人クリスチャンが大勢いたのです
そして彼らの一部がガラテヤの教会にやってきてパウロをおとしめ
非ユダヤ人クリスチャンに対して割礼を受けることを強要しました
それを知ったパウロが嘆きと怒りのうちに書いたのがガラテヤ人への手紙なのです
パウロはまず
十字架につけられたメシアの福音をガラテヤ人に突きつけました
そしてこの福音は
あらゆる民族によるイエスとアブラハムの新しい家族をつくり
さらに聖霊の臨在と力によって人々を造り変えると教えました
パウロは手紙の冒頭で
ガラテヤ人たちが違う福音に走ったことへの戸惑いを述べています
それはパウロの陰口をたたきながら割礼を強要したクリスチャンたちが広めたものでした
そこでパウロはまず自分が語ることの正当性と使徒としての権威を示しました
彼はよみがえりのイエスに任命されて非ユダヤ人へと遣わされたのです
これも使徒の働きに書いてあります
パウロは自分がペテロやヤコブのような他の使徒たちに相談するために
エルサレムに行ったのは後のちのことで
その時に非ユダヤ人のクリスチャンに割礼や食事規定を求めていないと伝えたところ
彼らは全面的にそれを支持したと言っています
しかしこの対立は根深いものがありました

ペテロはアンテオケ教会を訪ね非ユダヤ人クリスチャンと会い
彼らと食事をし交流を持ちました
ところがそれに反対する者たちが
エルサレムからアンテオケにやってくるとペテロは彼らの圧力に屈し
割礼を受けていないクリスチャンたちと食事を共にすることをやめ彼らを避け始めたので
す
そこでパウロは福音に立ち続けなかったペテロの偽善を非難しました
パウロから見ると新しくクリスチャンになった人々に
割礼や律法の順守を強要することはいろいろな意味で間違っていたのです
それは福音に対する裏切りでした
パウロが人はトーラーを行うことによってではなく
メシアであるイエスの信仰によって義とされるのであり
私たちはイエスを信じたと言った通りです
パウロが言う義とされるまた義と認められるという言葉は旧約聖書の意味深い言葉でした
神が誰かのことをご自分と正しい関係の中において
その人は赦されていて神の家族に加えられていて
そして神の恵みによって造り変えられると宣言することなのです
パウロは
人は誰もトーラーの戒めを守って義と認められることはできず
ただイエスの信仰によって義とされると確信していました
この言葉は私たちのために生き死なれたイエスの誠実さについて
もしくは私たちのイエスに対する信頼と献身について言っているともとれます
いずれにしろはっきりしているのは
人は神がイエスを通してしてくださったことを信じることによって
義と認められるのであり自分の行いによるのではないということです
パウロが宣べた福音の中心は
メシアであるイエスを人が信頼する時その人はイエスと結び付き
イエスの命死よみがえりがその人のものとなるということです
パウロはこう言っています
私はメシアと共に十字架につけられ
もはや私が生きているのではなくメシアが私のうちに生きているのです
今の命は私を愛し私にご自身をくださった神の御子への信仰によるのです
ですから人が神から義と認められている
またイエスの契約の家族に加えられていると言えるのは
トーラーに従ったからではありません
自分では決してできないことをイエスがしてくださったからなのです

イエスが成し遂げられたことの深い考察は
どんな人が神の契約の家族に加えられるのか
またその家族の一員として生きるとはどんなことなのかについて
重要な示唆を与えます
パウロはまず創世記のアブラハムの話から始めました
彼はすべての国々が彼と彼の子孫を通して祝福されるという
約束をただ信じることによって神の前に義とされました
そしてあらゆる民族からなる一つの大きな家族が
トーラーの律法によってではなく
信仰に基づいて神と結びつくことが最初から神の計画でした
しかしここにひとつ大きな問題があります
神はなぜイスラエルにトーラーの戒めを与えたのでしょうか
ここではパウロは短く答えをまとめていますが
後にローマ人への手紙でより詳しく記しています
アブラハムへの約束のずっとあとに
神はシナイ山で律法をイスラエルに与えたとパウロは述べます
そしてトーラーを注意深く読むとこれらが
一時的に有効なものとして与えられたことがわかるというのです
律法には二つの役割があったと彼は言います
まず律法はイスラエルの罪を浮き彫りにする拡大鏡のようでした
律法はイスラエルが絶え間なく神の戒めに反抗していて
他の民族と変わらず罪の性質があることを明らかにしました
善いものである律法がイスラエルそして全人類には罪があると
宣告するものになったのです
パウロが律法がすべての人を罪の下に閉じ込めたと言っているとおりで
律法にはもう一つの面もあります
それは厳格な教師のようにアブラハムの子孫からメシアが現れる
約束の時までイスラエルを養育していたことです
そしてメシアが現れた時
彼がイスラエルの代わりに律法の目的を果たしたのです
イエスは神と隣人を愛する誠実なイスラエル人でありイスラエルの王として
イスラエルの罪の結果と呪いを引き受けて死に贖いをもたらしました
そのため神の祝福はアブラハムの子孫であるイエスを通して
民族や社会的地位や性別にかかわらず
すべての人に与えられるのです
パウロは非ユダヤ人クリスチャンに律法の順守を求めることは

馬鹿げていると考えていました

それはイエスが神の約束を実現せず罪を解決していないと言っているようなものであり

イエスを通して与えられた自由と聖霊という贈り物を無視しているかのようです

また神の約束と祝福を一つの民族のものに限定してしまいます

しかしパウロの反対者たちはこう言うかもしれません

トーラーの戒めは神の意思に従って生きるための道しるべだ

非ユダヤ人クリスチャンはどうやってそれを学べるのだ

パウロは5章と6章で

それは人を造り変えるイエスの臨在聖霊が鍵だと教えます

律法はよいものですそこには知恵があります

すべての律法を要約すればイエスが言ったように

あなたの隣人をあなた自身のように愛せということです

しかし律法はよいものであってもそれに従う力をイスラエルに与えませんでした

一方で福音は私たちのために律法を成就したイエスが

聖霊を通して私たちの中に住み私たちに造り変え

人を愛することによって律法を成就できるようにしてくださると言っています

パウロはこの古い人と新しい人を比較しています

古い人のやることは明らかです

それは人間関係や共同体を壊してしまう非人間的な振る舞いです

トーラーの戒めはそのような振る舞いを禁じるだけでしたが

イエスはそれらを十字架に釘付け滅ぼしました

ですから人がイエスを信じ聖霊により頼んで生きるなら

イエスの命はその人に注がれパウロが言うところの聖霊の実を結ぶのです

これはイエスの家族である私たちがイエスと同じ実を結んで生きようになることであり

その実とは愛喜び平安寛容親切善意誠実柔和自制です

しかしこの聖霊の実は自然に実るわけではありません

本当の植物と同じで育てる必要があります

パウロはこのことについて聖霊によって生きるなら

聖霊によって進もうと言っています

これは意図的にする必要があります

過去の習慣を捨て新しい習慣を身に付けるすべを学ばなければなりません

そうしていく中で聖霊が働いてくださり

イエスが私たちの思いと心を造り変え

神と人とを愛する者にしてくださいます

このようにしてイエスを信じる者は

パウロが言うメシアのトーラーを成就できるのです

パウロは最後にトーラーの順守や割礼を強要するのは
まったく的外れだと言っています
本当に大事なのは神の新しい創造です
それは真心からイエスを信じ聖霊の力によって神と人とを愛することを学ぶ
あらゆる民族からなる新しいメシアの家族なのです
これがガラテヤ人への手紙です

【要約】

「ガラテヤ人への手紙」は、パウロがガラテヤ地方の複数の教会に宛てた手紙で、キリスト教の宣教旅行に関連しています。この手紙は、非ユダヤ人クリスチャンに対する割礼や律法の要求に対抗するために書かれました。パウロは、福音の中心にキリストへの信仰を置き、律法の重要性を軽視しました。彼は、アブラハムの約束を通じてすべての民族が祝福されると教え、聖霊によって人々を変え、新しい家族を形成すると説きました。また、律法の役割を説明し、イエスが律法を成就したため、信仰が義と認められると強調しました。最後に、聖霊の実を結びつけて、イエスを信じる者が新しい創造となり、メシアの家族として生きるべきだと述べました。割礼や律法の要求は、神の新しい創造との比較で的外れであると主張しました。重要なのは、真心から信仰し、聖霊の力を借りて神と人を愛することで、新しいメシアの家族を形成することでした。